

神代植物公園 調布市深大寺元町二丁目地内ほか

令和2年8月21日(金)

建設局公園緑地部

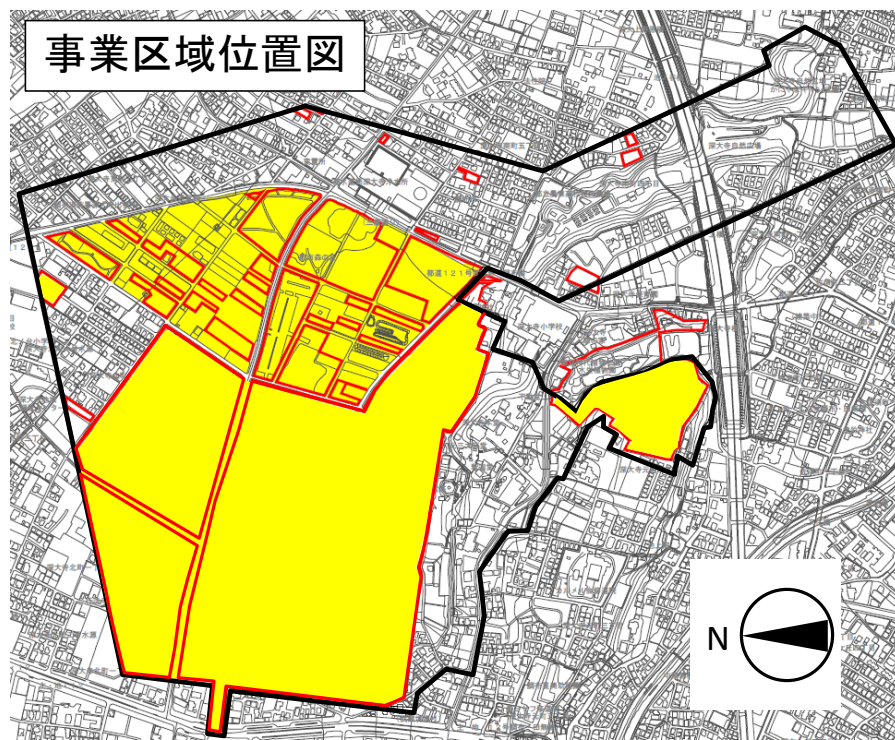
目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	7
3. 事業の投資効果	10
4. 事業の進捗状況	15
5. 事業の進捗の見込み	17
6. コスト縮減等	18
7. 対応方針(原案)	18

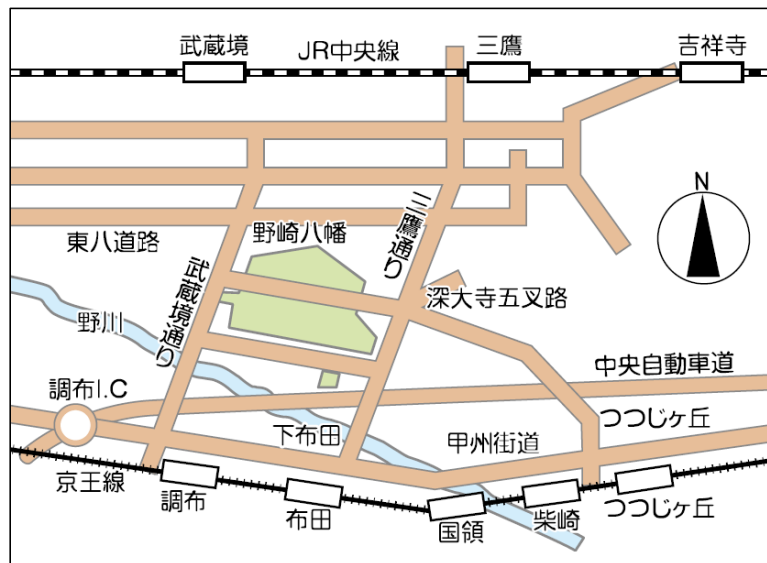
1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(計画諸元)

所在地	東京都調布市
都市計画決定	昭和32年12月21日
都市計画決定面積	100.32ha



案内図



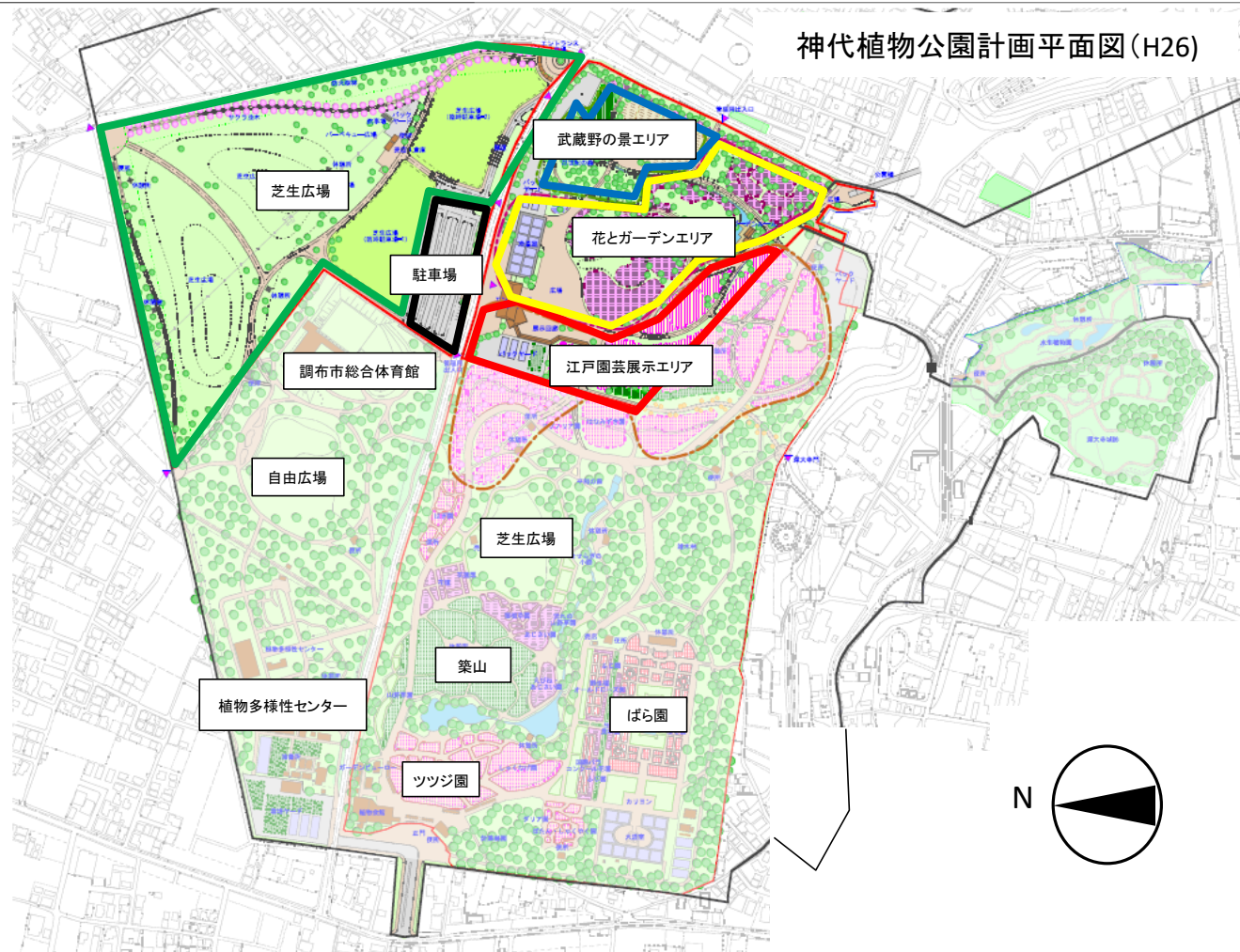
令和2年3月31日現在	凡例	面積 (ha)
都市計画決定区域		100.32
都市計画上の既供用区域		47.53
都市計画決定区域外を含む 既供用面積		48.97
取得予定区域 ※事業認可区域(完了済みも含む)		56.62

1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

○事業の目的

植物園機能の充実、レクリエーション空間の創出、自然環境の保全と活用、防災機能の拡充など

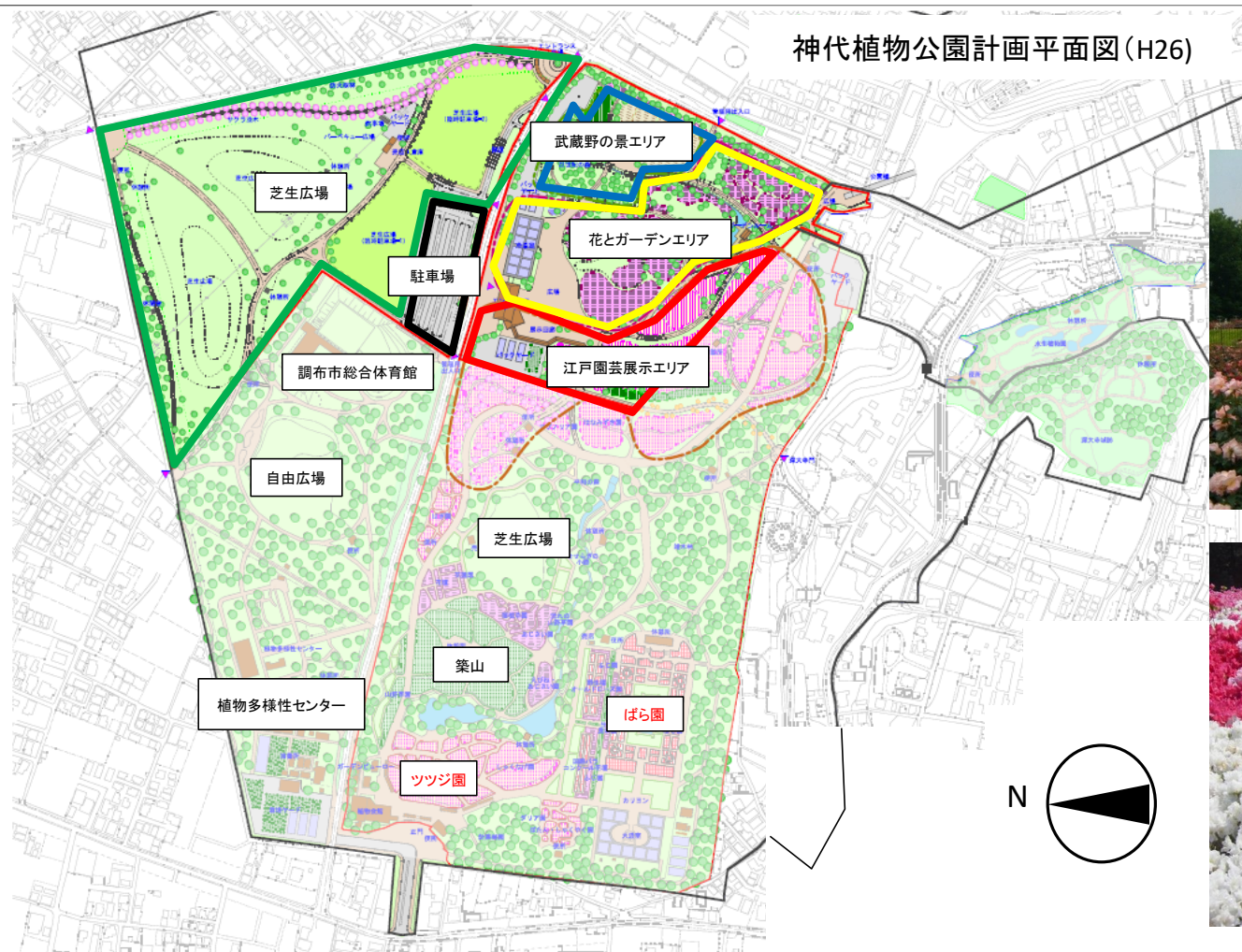


1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

○事業の目的

植物園機能の充実、レクリエーション空間の創出、自然環境の保全と活用、防災機能の拡充など



植物園機能の充実(例)



ばら園



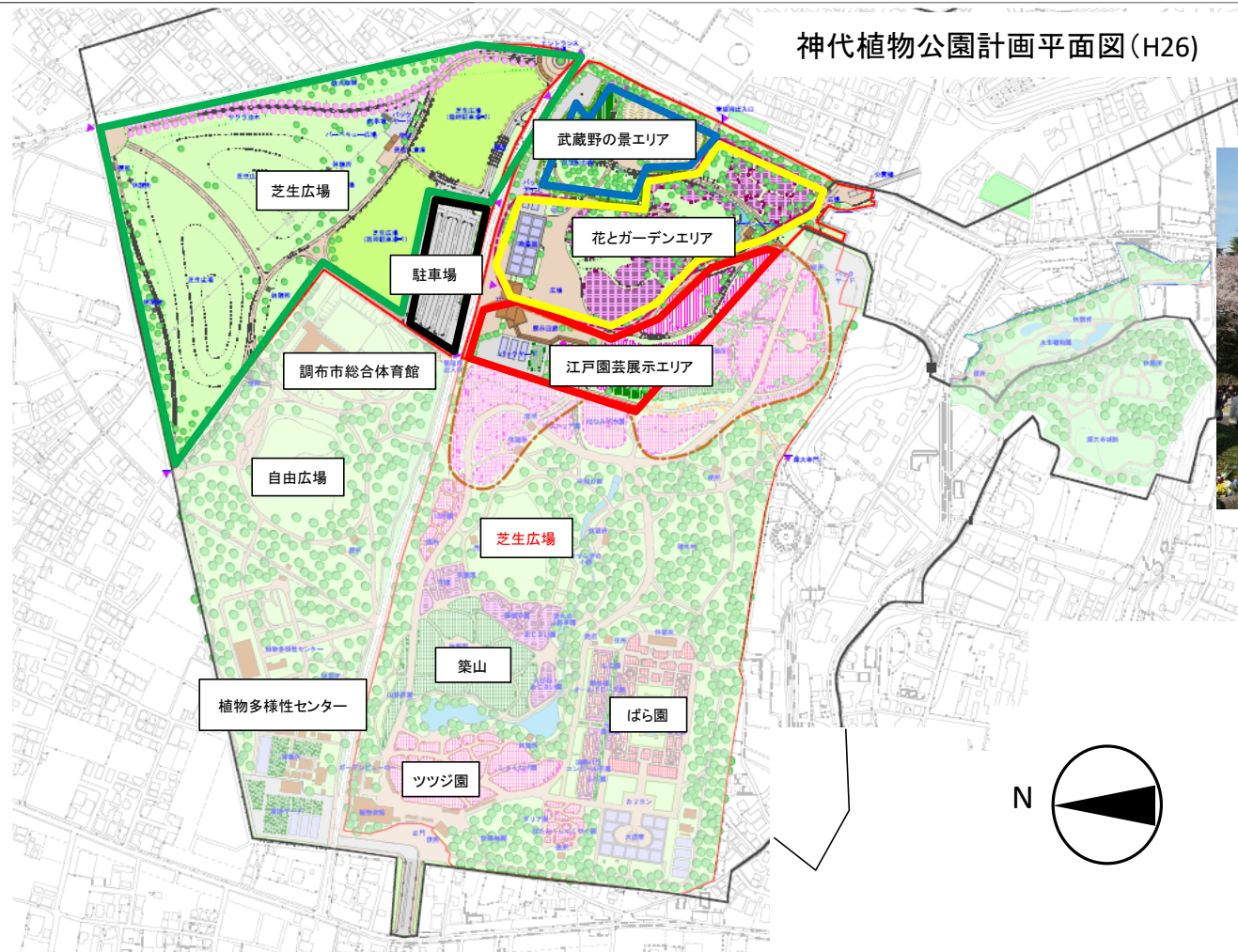
ツツジ園

1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

○事業の目的

植物園機能の充実、**レクリエーション空間の創出**、自然環境の保全と活用、防災機能の拡充など



レクリエーション空間の創出(例)

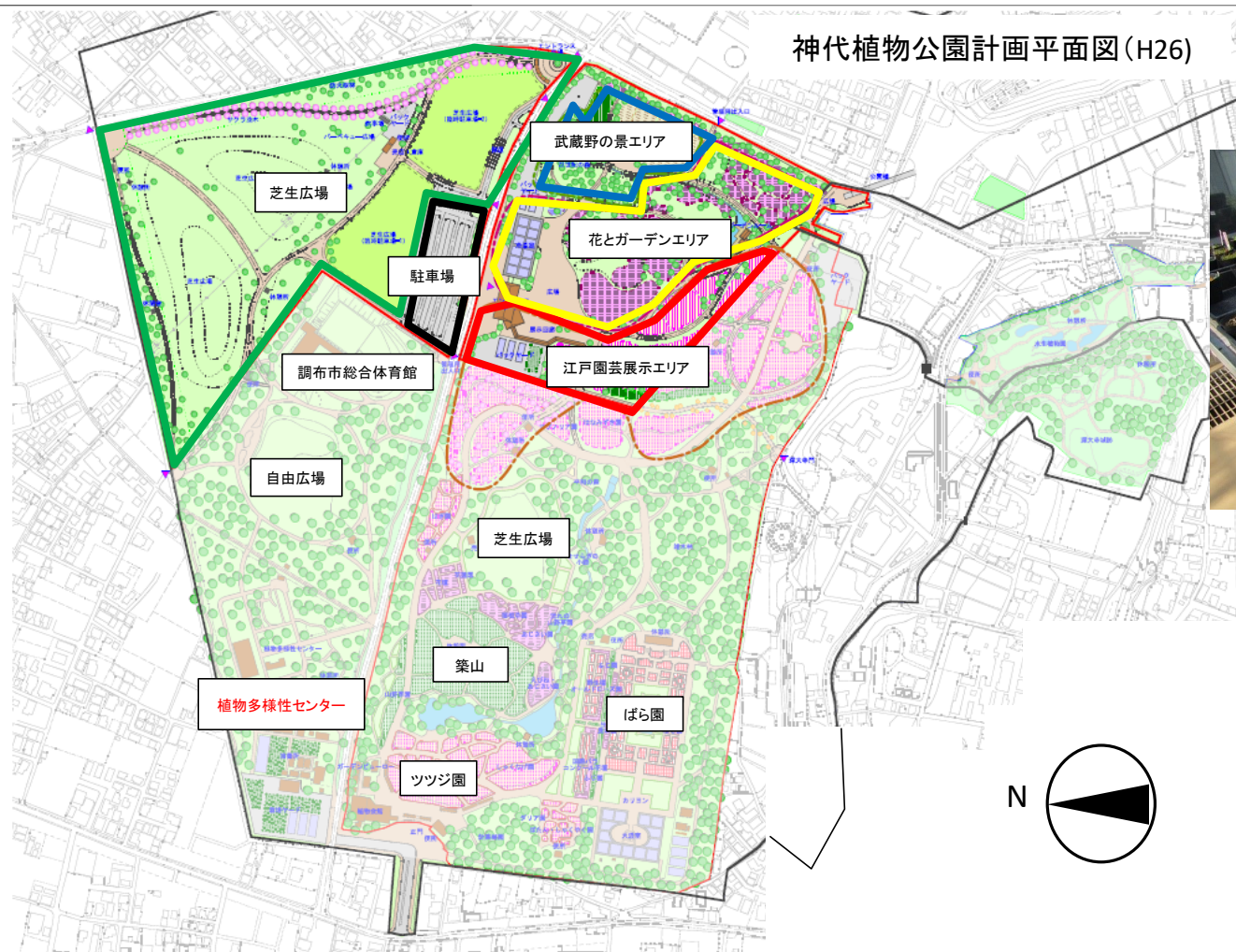


1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

○事業の目的

植物園機能の充実、レクリエーション空間の創出、**自然環境の保全と活用**、防災機能の拡充など



自然環境の保全と活用(例)

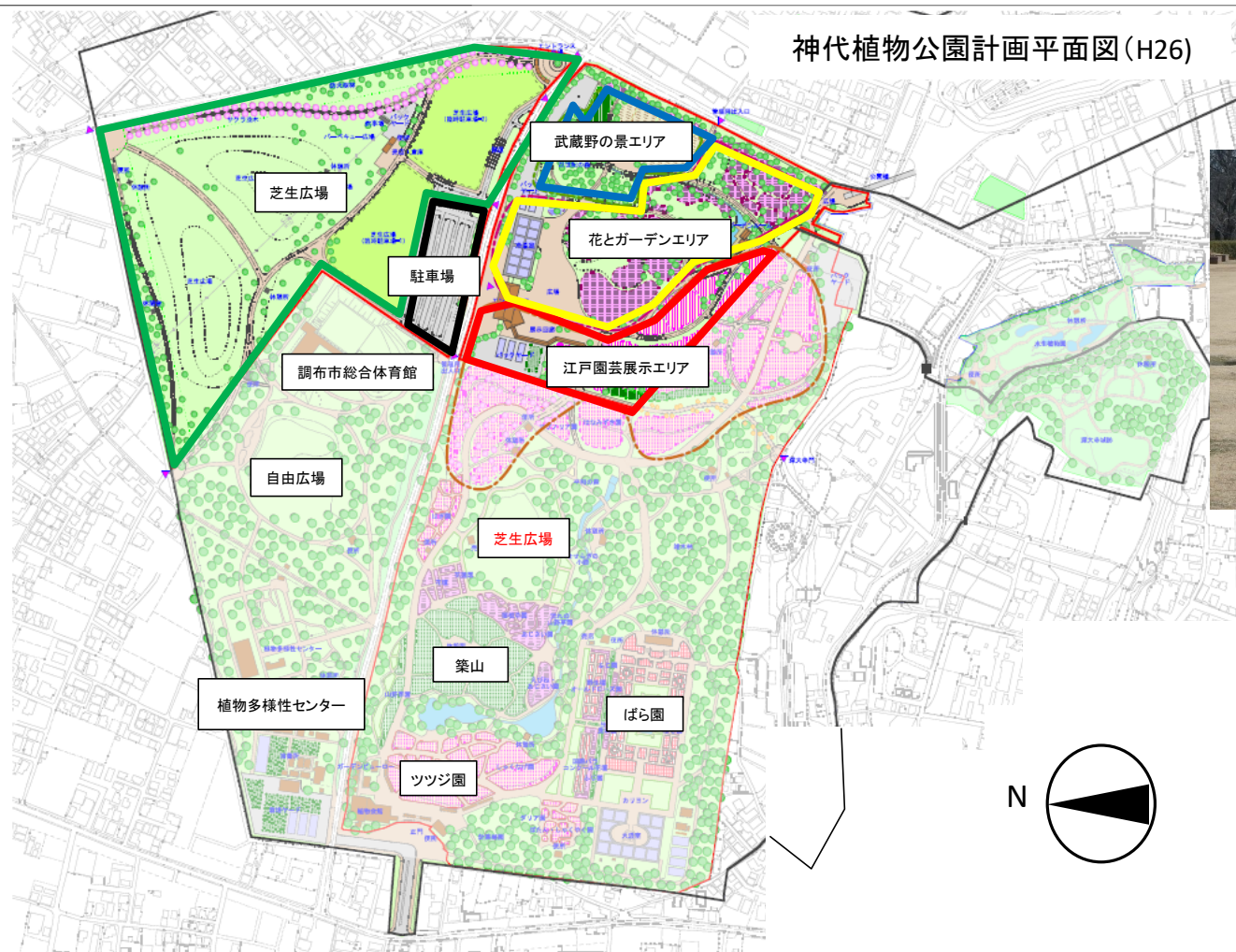


1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

○事業の目的

植物園機能の充実、レクリエーション空間の創出、自然環境の保全と活用、**防災機能の拡充**など



防災機能の拡充(例)



2. 社会経済情勢等の変化

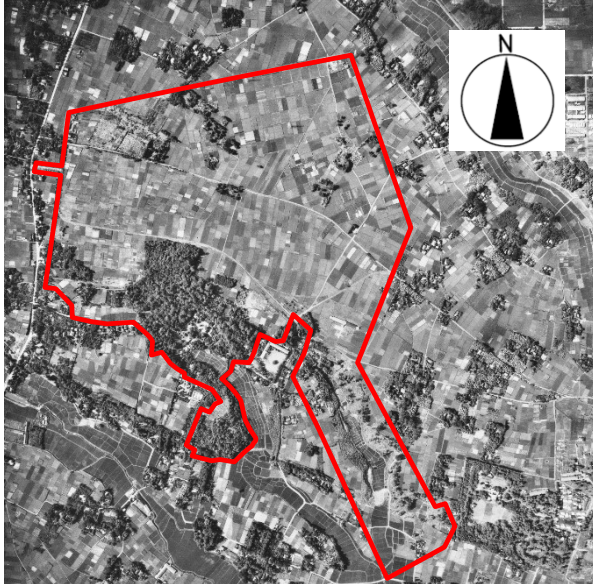
(1) 社会経済情勢等の変化(計画決定～)

【主な経緯】○昭和32年(1957)当初事業認可(36.52ha)

都市計画神代公園計画決定(100.32ha)

○昭和36年(1961)都立神代植物公園開園(25.5ha)

○現在、47.53haを供用(都市計画決定区域外を除く)



▲昭和23年の空中写真
(出典:国土地理院地図・空中写真閲覧サービス
USA M1121-A73を加工)



▲平成25年の空中写真(東京都所有データ)

2. 社会経済情勢等の変化

(2) 生物多様性について

○平成18年(2006)日本植物園協会:植物多様性保全拠点園ネットワーク

→植物園での「保全植物種の増加」「保全植物の質の向上」を目指す

神代植物公園は関東の「地域野生植物保全拠点園」に認定

※地域野生植物保全拠点園:

気候や地域でエリア分けし、地域の連携を図って絶滅危惧植物の保全活動を推進

○平成24年(2012)植物多様性センター開館

→都内絶滅危惧植物の保護・増殖、情報の

収集・発信、植物多様性の普及・啓発を実施

○平成26年(2014)都民ファーストでつくる

「新しい東京」~2020に向けた実行プラン~

→積極的に事業を行う公園を選定し、

生物多様性保全を目的とした整備・管理を実施中



2. 社会経済情勢等の変化

(3) 災害対策の需要増加

- 東京都地域防災計画・・・芝生広場(有料区域)を大規模救出救助活動拠点に位置付け
- 調布市地域防災計画・・・神代植物公園(有料区域)及び自由広場を広域避難場所に位置付け



3. 事業の投資効果

(1) 定量的評価：費用対効果分析

「改訂第4版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(国土交通省)に基づき算出

便益(B)	直接利用価値		間接利用価値		合計	費用便益比 (B/C)
	411.8億円		3,047.8億円		3,459.6億円	
費用(C)	用地費	工事費	維持管理費	合計		2.8
	792.2億円	78.2億円	369.8億円	1,240.2億円		

今回の評価対象地 = 事業認可区域(完了済みも含む)

直接利用価値・・・スポーツや散策など公園を利用することで得られる価値を貨幣換算したもの

間接利用価値・・・公園による気候緩和、CO₂削減、景観向上や、延焼防止、地下水涵養、震災時避難場所といった価値を貨幣換算したもの

⇒ 便益は、無料区域のみ供用開始から50年後に価値がゼロとなるように逓減

用地費・・・公園用地を取得するのに要した実費 + 事業完了までかかる見込費用

工事費・・・公園施設を整備するのに要した実費 + 事業完了までかかる見込費用

維持管理費・・・無料区域：供用開始から50年間の維持管理に要する費用

有料区域：供用開始から事業完了後50年までの維持管理に要する費用

各年度の便益・費用について、過去分はGDPデフレーター、未来分は年4%の割引率をかけることにより、現在に換算した貨幣価値を算出。

3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価①: 植物園機能の充実

○植物園機能・・・

多種多様な花と緑を通じて自然を学び楽しむ
江戸園芸文化の情報発信の拠点となる

○多種多様な花と緑(例)



○江戸園芸(例)・・・

江戸時代から親しまれていた園芸植物



3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価②:レクリエーション空間の創出

調布市全体の公園面積:約132ha

神代植物公園の既供用面積:約48ha・・・調布市全体の公園面積のうち4割程度

神代植物公園の未供用取得予定区域全てを供用すると、
調布市の人口一人あたりの公園面積は0.4m²程度増加する。

5.53m²(R1.3.31時点) ⇒ 5.91m²・・・7%程度増加



3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価③: 生物多様性への貢献

(自然環境の保全と活用)

○ 都内絶滅危惧植物等の保護・増殖: 絶滅危惧種の生息域外保全
絶滅危惧種・・・コウゾエビネ、ナギラン、ユウシュンラン等

○ 植物多様性に関する教育・普及: 情報館、学習園の整備(平成24年度)



3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価④: 防災機能の強化

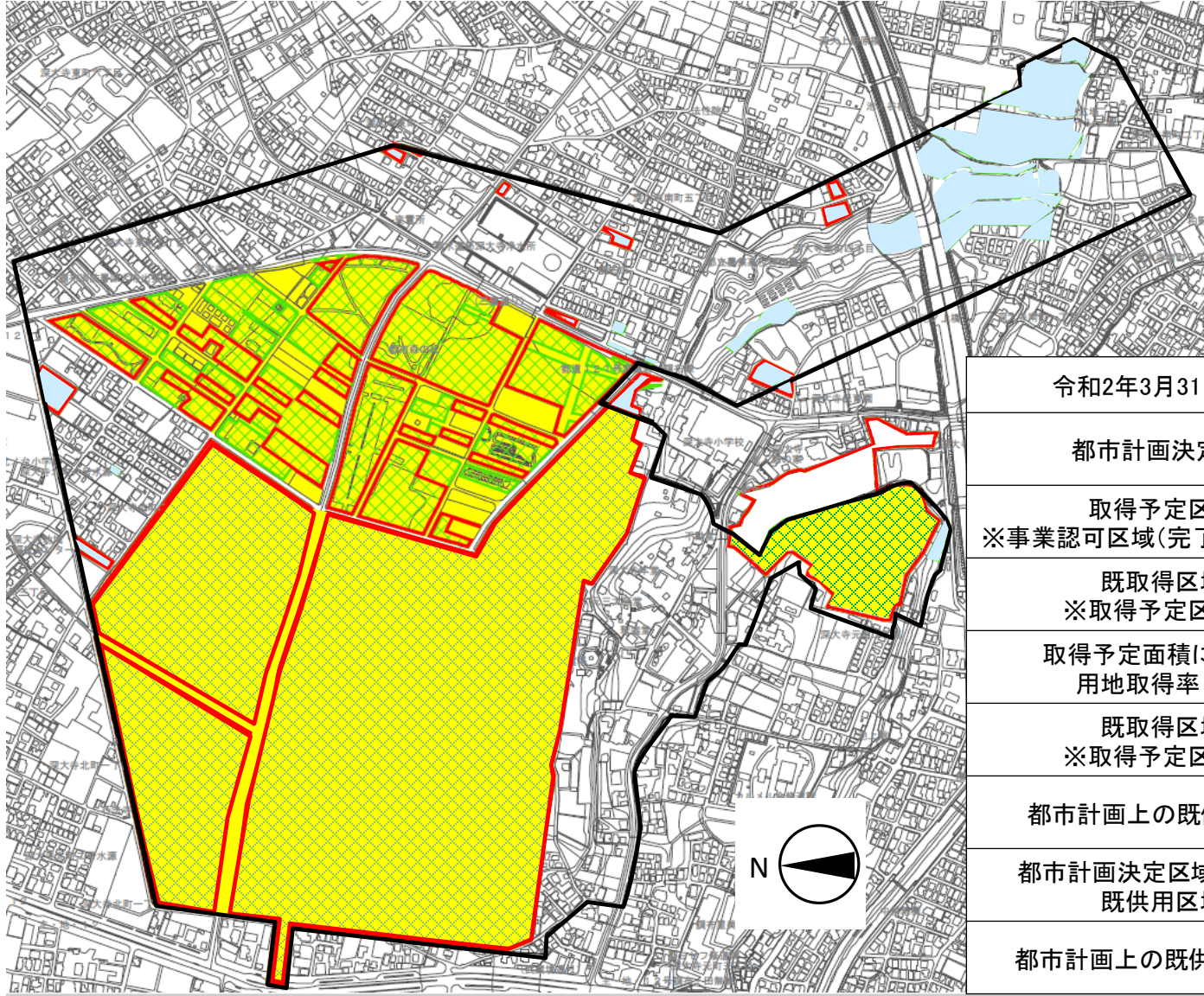
- 芝生広場は、ヘリコプターの離発着を想定した大規模救出救助活動拠点に指定(東京都地域防災計画)
- 災害対応トイレや非常用発電設備等の整備








マンホール型トイレ (組立時)

4. 事業の進捗状況

(1) 用地取得状況・供用状況 (R1年度末時点)



令和2年3月31日現在	種別	面積 (ha)
都市計画決定区域		100.32
取得予定区域 ※事業認可区域(完了済みも含む)		56.62
既取得区域 ※取得予定区域内		53.49
取得予定面積に対する 用地取得率 (%)		94.5
既取得区域 ※取得予定区域外		2.48
都市計画上の既供用区域		47.53
都市計画決定区域外を含む 既供用区域		48.97
都市計画上の既供用率 (%)		47.4

4. 事業の進捗状況

(2) 事業費の執行状況(R1年度末時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費	80,638百万円	6,730百万円	87,368百万円
執行済額	74,977百万円	5,591百万円	80,568百万円
(執行率)	93.0%	83.1%	92.2%

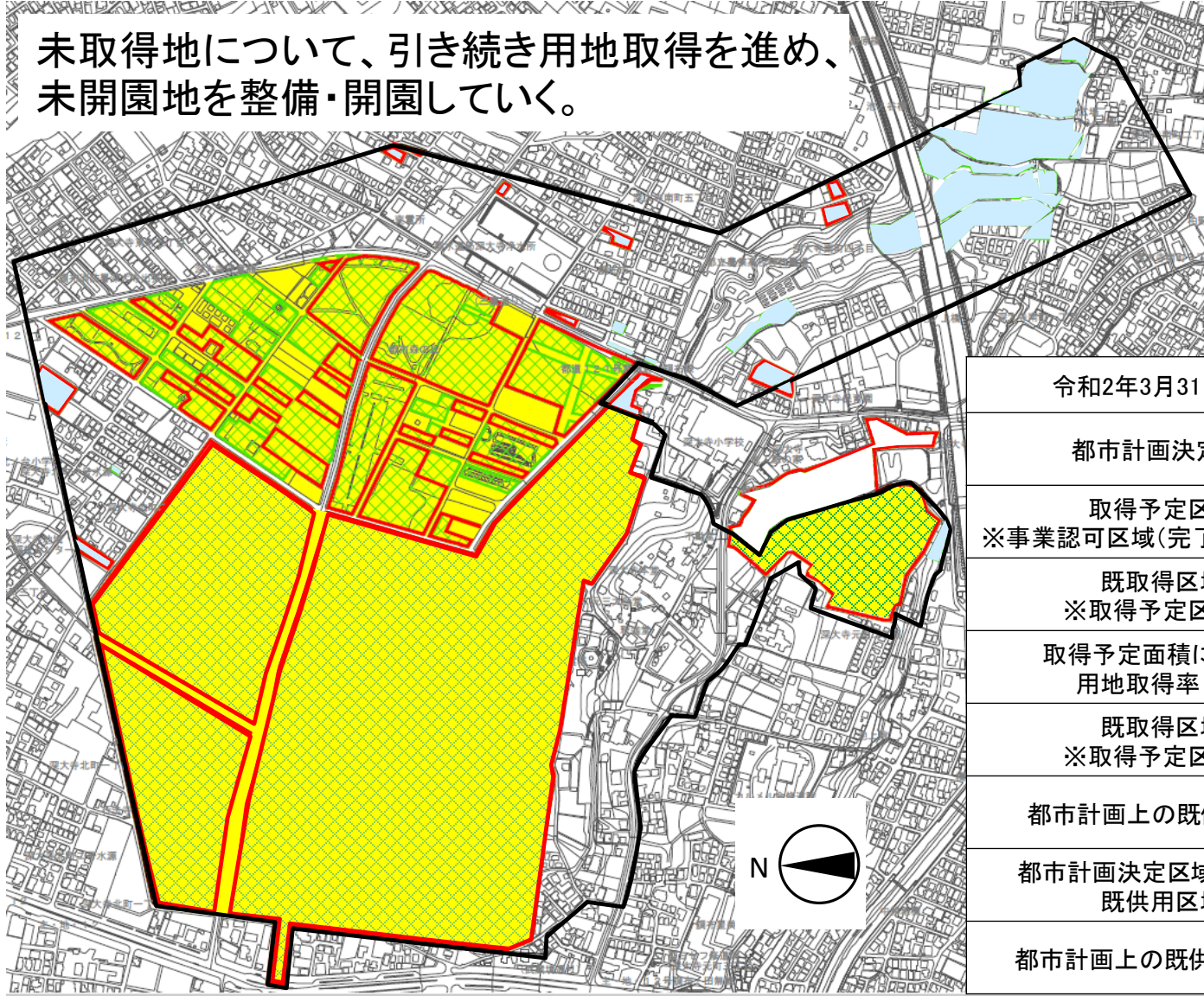
【一定期間を要した背景】

未取得地の多くは生産緑地であり、営農者の生活基盤となっていることから、地権者の売却意向に配慮しつつ、用地取得を進めている。

5. 事業の進捗の見込み

(1) 取得予定区域

未取得地について、引き続き用地取得を進め、未開園地を整備・開園していく。



令和2年3月31日現在	種別	面積 (ha)
都市計画決定区域		100.32
取得予定区域 ※事業認可区域(完了済みも含む)		56.62
既取得区域 ※取得予定区域内		53.49
取得予定面積に対する 用地取得率 (%)		94.5
既取得区域 ※取得予定区域外		2.48
都市計画上の既供用区域		47.53
都市計画決定区域外を含む 既供用区域		48.97
都市計画上の既供用率 (%)		47.4

6. コスト縮減等

コスト縮減のための検討(例)

○リサイクルの推進・・・

造成による発生土の園内利用など

○維持管理が容易な設備(汎用品)の導入・・・

ベンチなど

○取得予定区域の9割を取得しており、施設規模の見直しの可能性はない。

7. 対応方針(原案)

(1) 総合評価

○植物園機能の充実

○レクリエーション空間の創出

○絶滅危惧種の生息域外保全や植物多様性に関する教育・普及のための施設整備

⇒生物多様性への貢献(自然環境の保全と活用)

○マンホールトイレ等の防災施設の整備

⇒防災機能の強化

(2) 対応方針(案)

継 続